

藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月原則第一土曜日の午後、開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

高島藤樹会の活動

一月四日（土）午後、安曇川公民館で第百一回藤樹人間学塾を開きました。

冒頭、昨年十二月にアフガンスタンで凶弾に倒れた、中村哲医師の話がありました。彼は、医師になりました。彼は、一九八〇年代後半からアフガンの病院で医療活動をしながらかつ清浄な水を飲めずに病気になる人を救うために井戸を掘り、用水路を建設し、農業を再生して多くの人命を救われた偉人です。

『中庸解』は第二十章に入りました。今回の部分の大意は、教養ある人は身を修めなければならない。身を修めようと思えば、父母と自分は一体であることを推し広げて父母以外の人にも仁（思いやり）を施せば、良知本体に至ることができる。フリートーカーでは、「子供の相

談に乗っていると、幼少期の根になる出会いが人生を左右すると感じる」という意見等が出て、話し合いました。二月一日（土）午後、安曇川公民館で第百二回藤樹人間学塾を開きました。

今回も冒頭、中村哲医師の話をしました。福岡で行われたお別れ会には五千人の人が訪れ、アフガンのために三十年以上支援活動をつづけた中村さんを偲んだそうです。中村さんは常々「口で立派なことばかり言わんで行動で示せ」と言われていたそうです。

『中庸解』の第二十章の続きです。今回の大意は、人間が生きていく上において大事なものが五つあり（君臣の義、父子の親、夫婦の別、兄弟の序、朋友の信の五倫）、これは大きな木に例えられます。一方それを支える知仁、勇の三徳は木の根のようなもので目に見えないが、これが達徳にまで至らないと、五倫は達成できません。そしてそれらを貫徹するものを「一」といい、藤樹先生はそれを「純一無雜の本体そのもの」といわれている。私はそれは「全孝の自覚」だと思おうと述べました。



フリートーカーでは、「生かされている自分に気づいた。もっと早く来ればよかった」等の意見が出ました。三月七日（土）午

後、安曇川公民館で第百三回藤樹人間学塾を開きました。急激に新型コロナウイルスの感染が拡大しており、細心の注意を払いました。

今回も『中庸解』の第二十章の続きです。今回の大意は、惑いの道理を心得て徳に進むために学を好めば、良知に近づく。利己の障がいを出して克服することができれば仁（思いやりの心）に近づく。人欲に引き回されることが恥であることを知ることができれば勇（人が本来持っている本心）に近づく。知、仁、勇の三徳が得られれば、自然と身を修めることができる。

身が修められれば人を治められる。人を治められれば、天下国家を治めることができる。しかし、私たちが利己の心、人欲を克服することはいへん難しいことです。そこで、堀澤祖門師（三千院門跡門主）の「致知」での講話「杵を破る」を引用して図解で説明しました。私たちが暮らしている世界は「二元相對」（現象界＝色）の世界です。そこでは人間誰しも自分が一番大事です（＝人欲の世界）。そこでは争いごとが絶えません。国と国との戦争にもなりません。

これを打破するためには、二元相對の杵を破ります。そうすると「一元絶対」の世界になります。これは、「悟り」＝色即空の「空」を通ることによって実現します。空が分かったら一元絶対になつて自分と他人の区別がなくなり

ます。積尊は「愚か者は自分の子供だ、自分の財産だと思ひ悩む。ところが自分自身が既に自分のものではないではないか。どうして自分の子供だ、自分の財産だといえようか」といわれています。『孝経』にも「わが身に備わっているものは、心も性（本性）も体も毛髪も皆、親の心・性・体・毛髪を受け継いだものなので、身体髪膚の本をただせば自分のものではなく、親の身体髪膚なのだ」と記されています。それをさかのばれば私たちは大宇宙の分身であるということです。

一元絶対が目覚めたら世界に広めていこうと決意することが肝要と堀澤師は述べられています。積尊は悟られた後、約五十年間、布教活動を続けられた八十歳で没されました。

フリートーカーでは、「二元相對の世の中では争いが絶えないことがよく分かった」、「この学びは奥が深い。哲学を学んできたが、現代の分断した世の中をまとめるには、正・反・合の弁証法的対応がよいと思う」等の意見が出ました。

本塾に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

藤樹人間学塾 今後の予定

六月六日（土） 七月四日（土）

八月二日（日） 九月一九日（土）

日時（原則）第一土曜日の十五時～十七時

場所（原則）安曇川公民館